



# MONITOUCH

## テクニカルインフォメーション

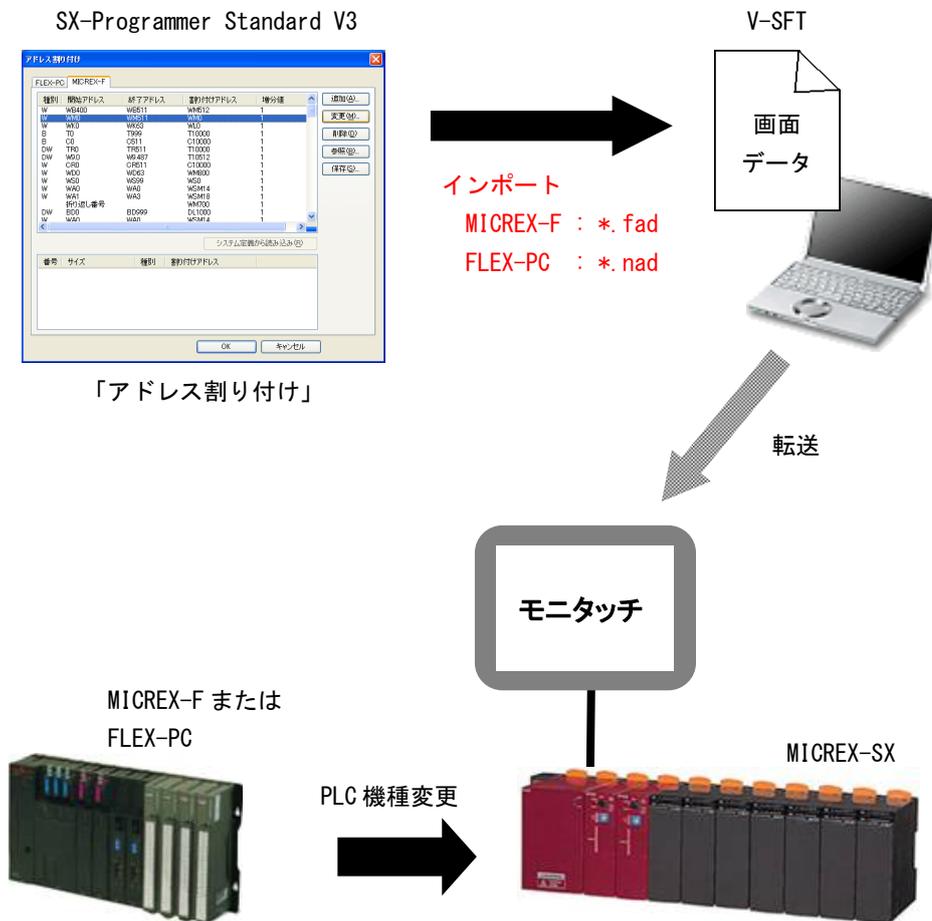
2018年11月16日

テーマ	富士電機 PLC MICREX-F、FLEX-PC→MICREX-SX 置き換え時のメモリ変換手順		
該当機種	V9、V8、TS2060、V7、V6、TELLUS4、TELLUS3、TELLUS	No. TI-M-0061-3	1/9

### 1. 目的

画面データの接続機器を MICREX-F または FLEX-PC → MICREX-SX に変更する際に、PLC のローダソフト (SX-Programmer Standard V3) で作成した「アドレス割り付け」を利用してメモリ変換を簡単に行います。

例：



PLC のプロジェクトファイルも同じ「アドレス割り付け」で変更する必要があります。  
「アドレス割り付け」が異なると、正常に動作しません。

## 2. 動作環境

### ソフト対応 Ver.

- 作画ソフト : V-SFT Ver. 5.4.28.0 以降  
V-SFT Ver. 6.0.0.0 以降
- PLC ロダーソフト : SX-Programmer Standard V3.0.6.24 以降

### V シリーズ / TELLUS 対応機種

V9、V8、TS2060、V7、V6、TELLUS4、TELLUS3、TELLUS

### 富士電機 PLC 対応機種

変更前	変更後	
PLC 機種	PLC 機種	モード選択
MICREX-F シリーズ	MICREX-SX SPH/SPB シリーズ MICREX-SX SPH/SPB CPU MICREX-SX(T リンク) MICREX-SX(OPCN-1) MICREX-SX(SX バス) MICREX-SX(Ethernet)	Fモード または Nモード *2
MICREX-F シリーズ V4 互換		
MICREX-F T リンク		
MICREX-F T リンク V4 互換		
SPB(N モード) & FLEX-PC シリーズ		
SPB(N モード) & FLEX-PC CPU		
FLEX-PC COM(T) *1		
FLEX-PC(T) *1		
FLEX-PC CPU(T) *1		
FLEX-PC(OPCN-1) *1		

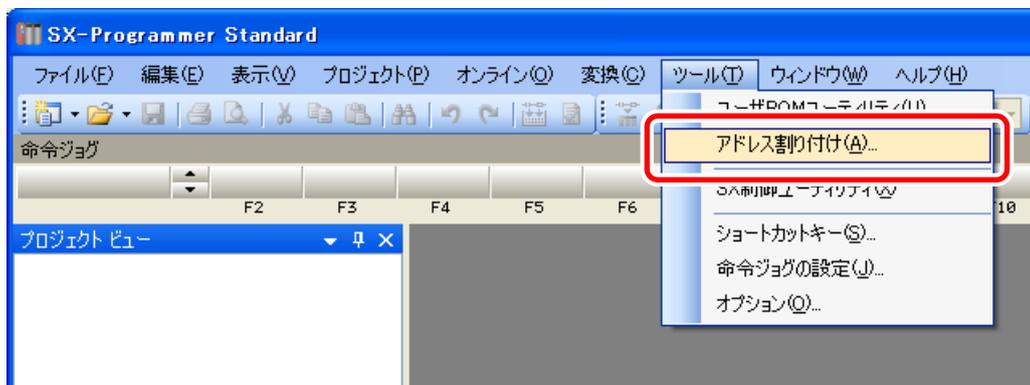
\*1 V9、V8、TS2060、TELLUS4、TELLUS3、TELLUS は未対応。

\*2 IEC モードへの変換は非対応。

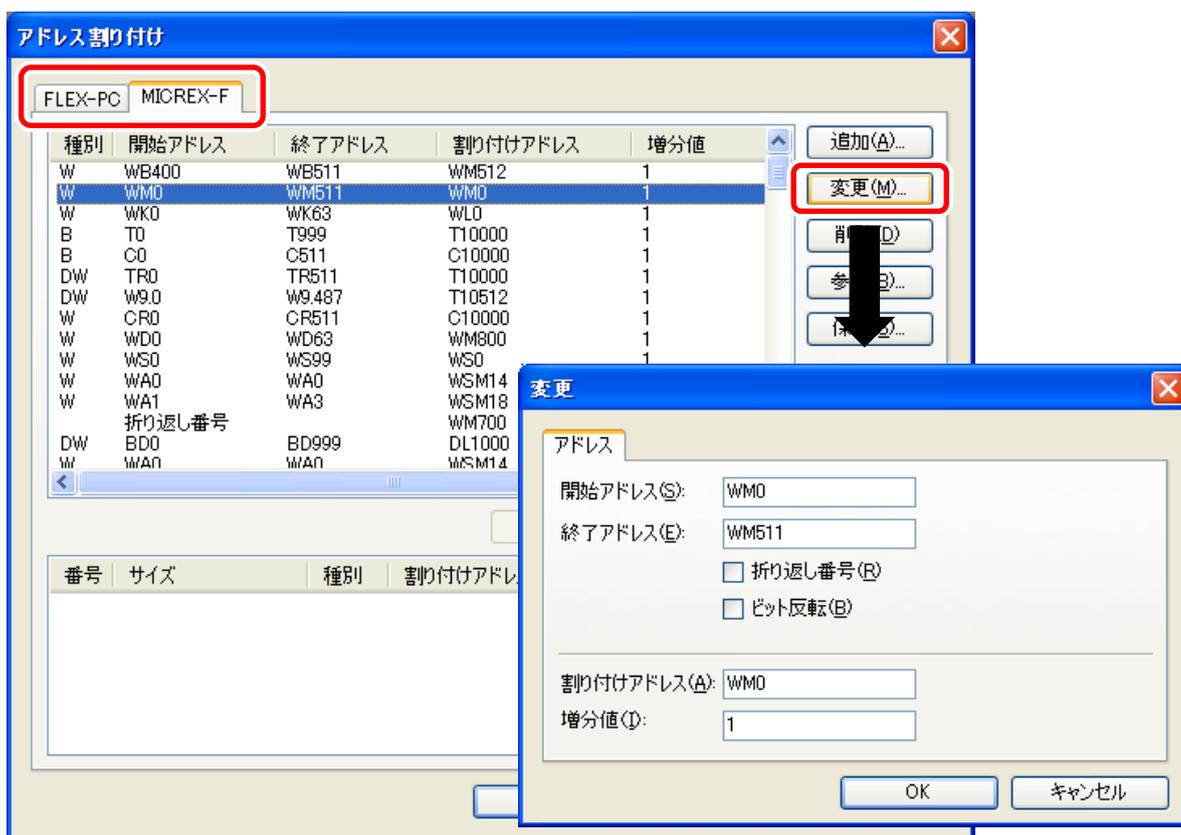
3. 手順

PLCのローダソフト(SX-Programmer Standard V3)は、Ver. 3.0.6.24以降をご使用ください。

- ① PLCのローダソフトを起動します。
- ② メニューバーの[ツール]→[アドレス割り付け]をクリックします。



- ③ [アドレス割り付け]ダイアログが表示されます。  
変更前のPLCのタブ(MICREX-FまたはFLEX-PC)を選択します。  
アドレスの割り付けなどを変更する場合は、選択後、[変更]をクリックします。\*

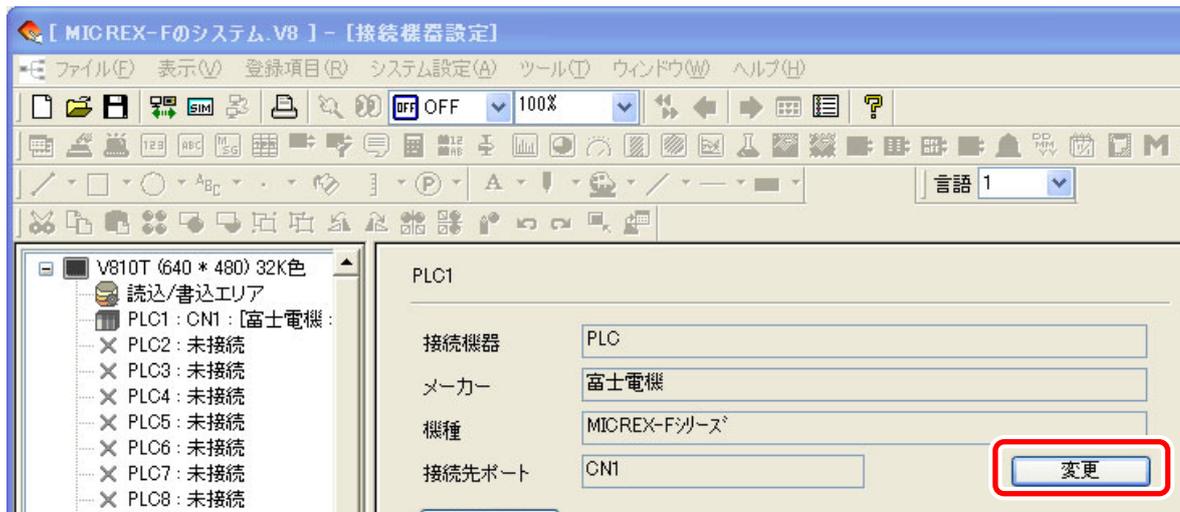


\* MICREX-Fの場合、ビット反転を行うアドレスは、[ビット反転]にチェックします。  
ローダソフトの使い方について、詳しくはマニュアルを参照してください。

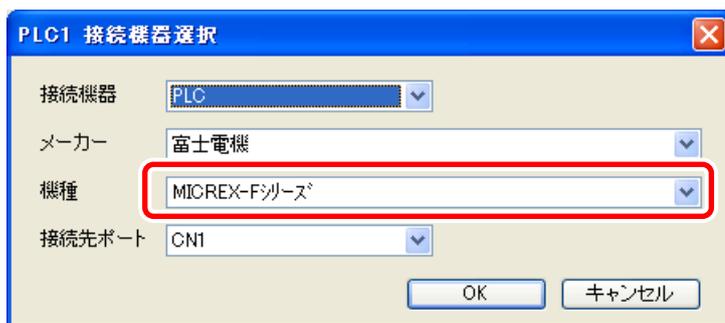
- ④ [保存]をクリックします。ファイルが出力されます。  
変更前のPLC機種により拡張子が異なります。

MICREX-F : \*.fad  
FLEX-PC : \*.nad

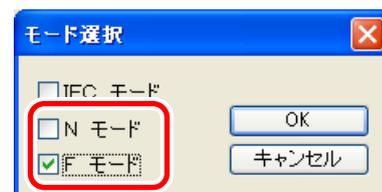
- ⑤ V-SFT を起動して、画面データを開きます。
- ⑥ メニューの[システム設定]→[接続機器設定]を開き、[変更]をクリックします。



- ⑦ [接続機器選択]ダイアログで、機種変更をします。  
例：MICREX-F シリーズ⇒MICREX-SX SPH/SPB シリーズに変更する場合



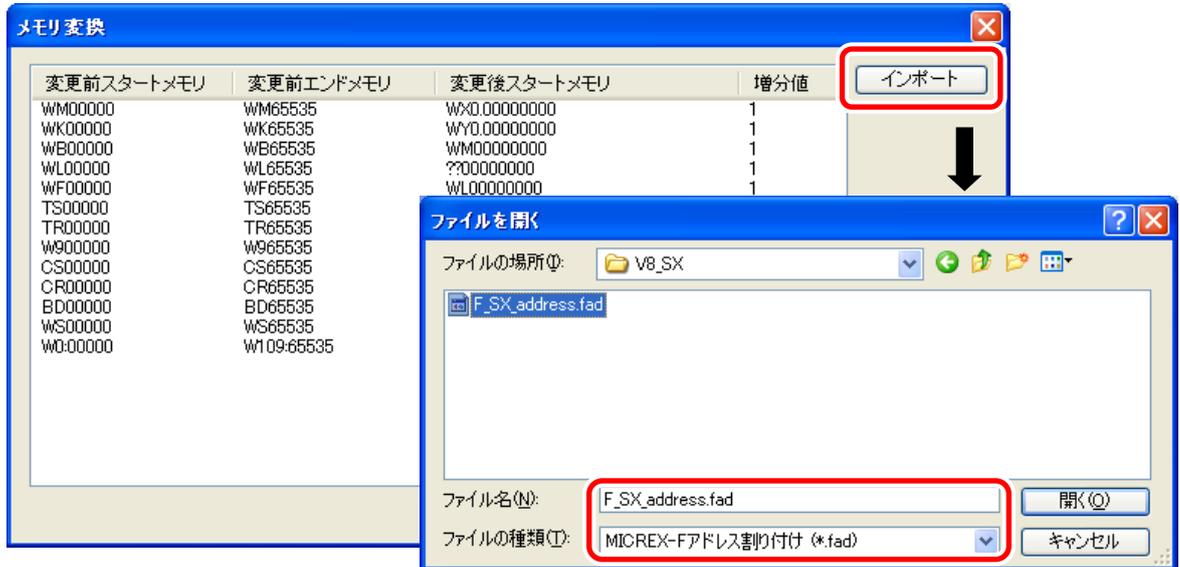
↓  
機種変更



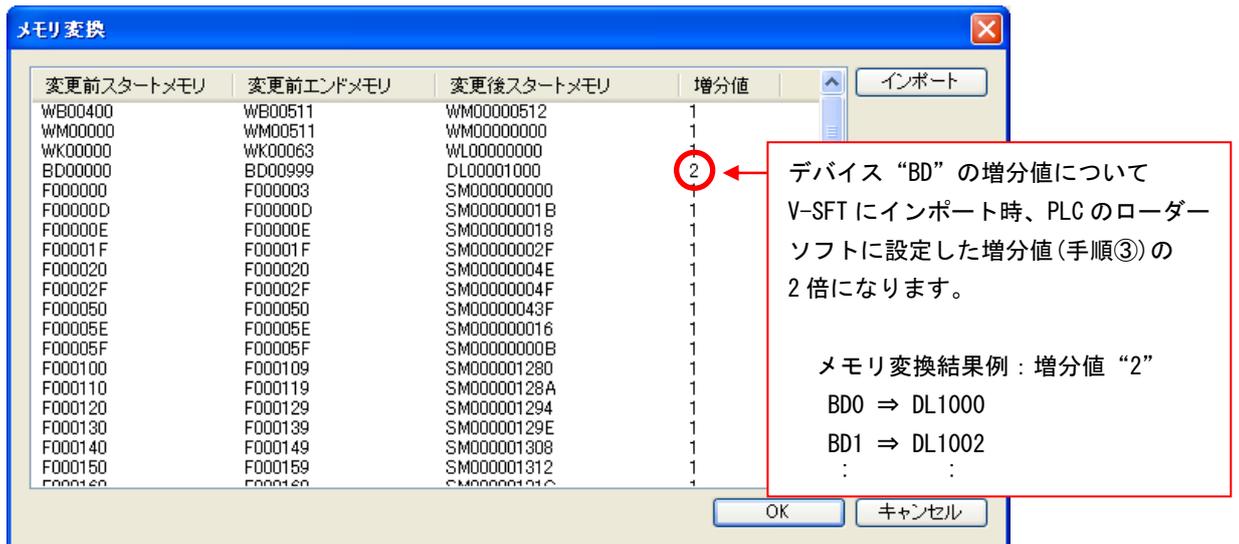
- ⑧ 以下のメニューで [はい] を選択し、[メモリ変換] ダイアログを表示します。



- ⑨ [インポート]ボタンをクリックします。  
 手順④で保存したファイルを選択し、[開く] をクリックします。  
 例：MICREX-F の場合



- ⑩ PLC のローダソフトでエクスポートした内容に更新されます。



画面データに使用できる MICREX-SX のメモリは以下のとおりです。このメモリ以外は「??」で表示されるため、[変更後スタートメモリ] (ダブルクリックで変更可) で変更してください。

デバイス	備考
X (入力メモリ)	ワード時 WX ダブルワード時 DX
Y (出力メモリ)	ワード時 WY ダブルワード時 DY
M (標準メモリ)	ワード時 WM ダブルワード時 DM
L (リテインメモリ)	ワード時 WL ダブルワード時 DL
SM (システムメモリ)	ワード時 WSM ダブルワード時 DSM
WFL (ユーザーファイル)	ダブルワード時 DFL

\* X/Y を使用する場合は P. 6 以降をご覧ください。

\* WFL/DFL は V9、V8、TS2060 のみ F モード選択時に使用可能です。  
 使用する場合は P. 6 以降をご覧ください。

確認後、[OK] をクリックします。以上で、メモリ変換は終了です。

4. X/Y、もしくは、WFL/DFL (Fモードのみ) を使用する場合 (デバイス情報のエクスポート手順)

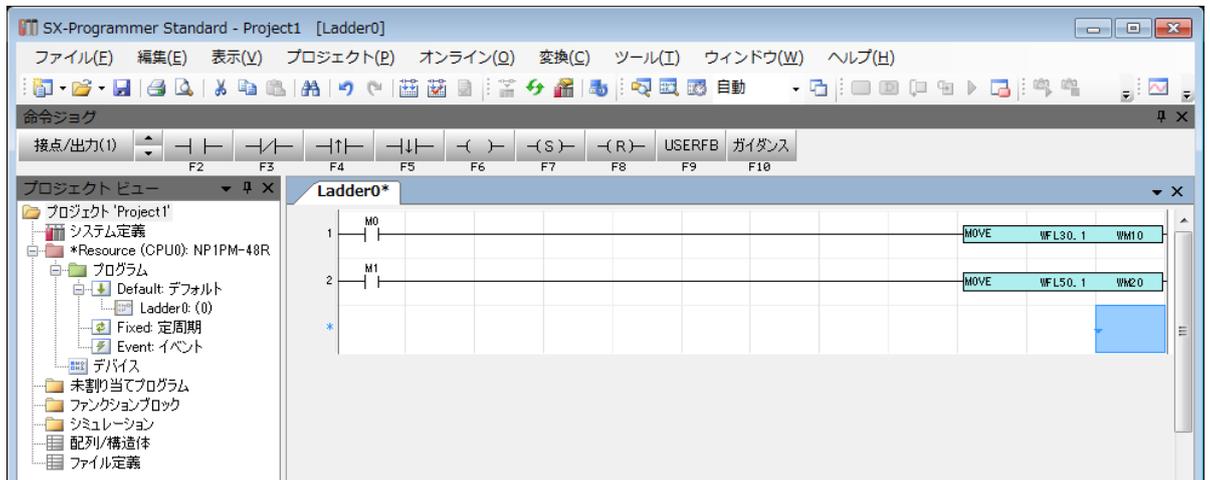
デバイス情報 (\* .ini) のエクスポート/インポート作業が必要です。

ラダー内で WFL/DFL を使用していない場合、インポートファイルに WFL/DFL の情報が出力されません。

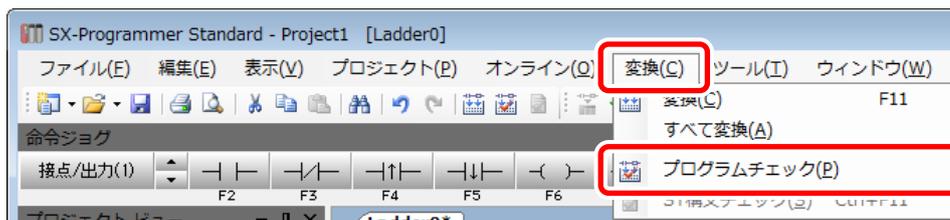
WFL/DFL を使用した回路をラダー内に追加してから、エクスポート作業を行います。

X/Y のみを使用する場合は、手順③からご覧ください。

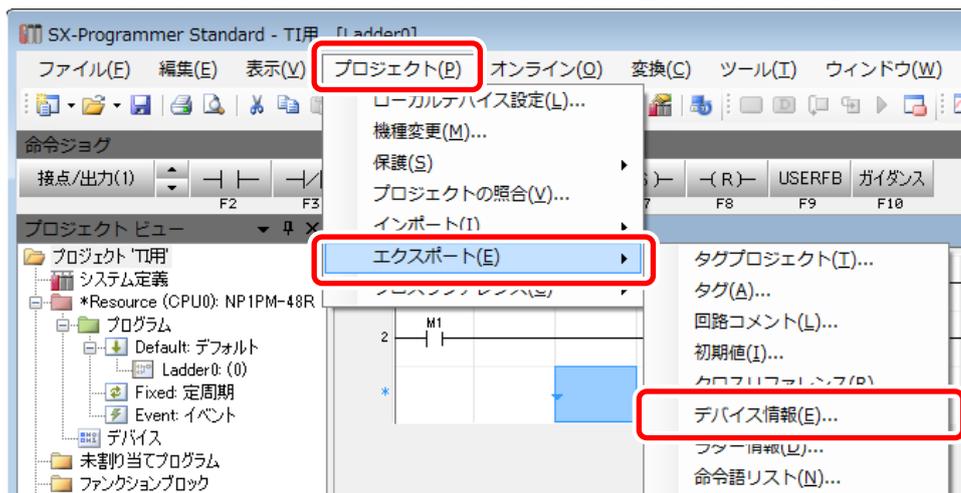
- ① SX-Programmer Standard で、WFL を使用した回路を追加します。



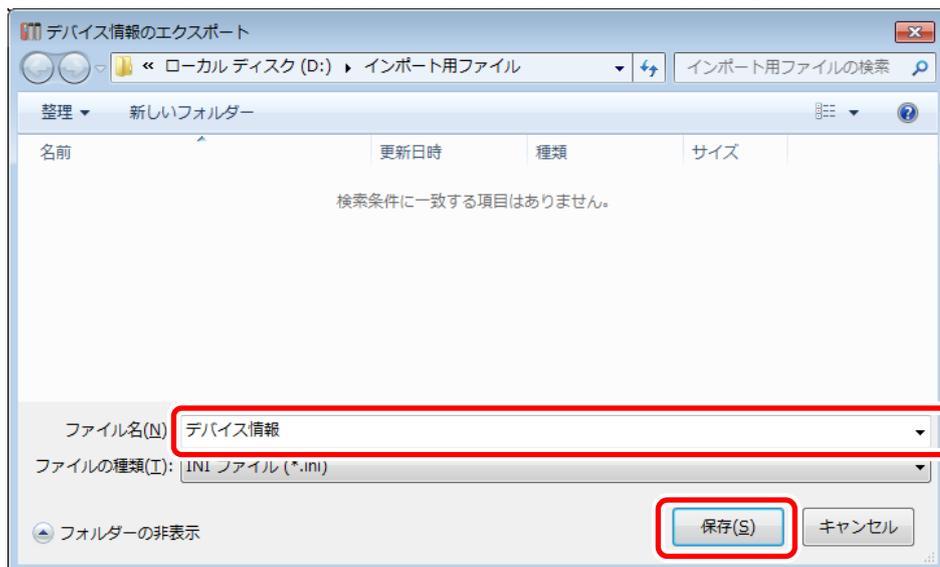
- ② [変換] → [プログラムチェック] をクリックしてエラーがないことを確認します。



- ③ [プロジェクト] → [エクスポート] → [デバイス情報] をクリックします。



- ④ 任意の名前を付けて V-SFT 用のインポートファイル (\*.ini) を保存します。

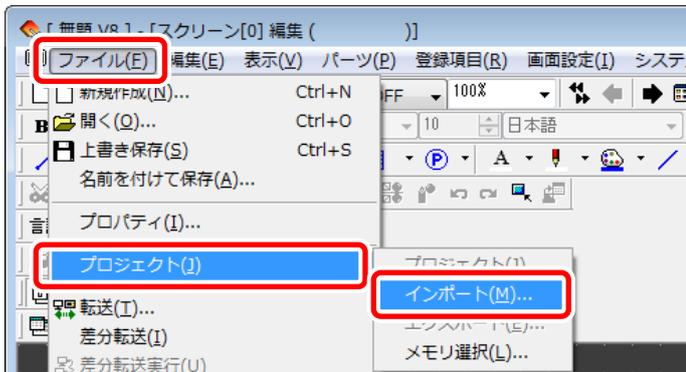


\* デバイス情報のファイル (\*.ini) と同じ名前フォルダができます。

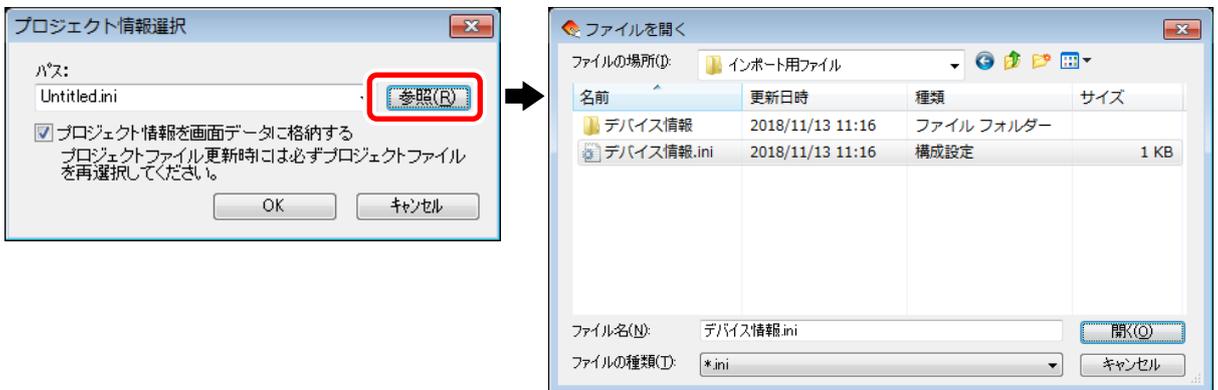
以上でデバイス情報のエクスポート作業は終了です。

5. デバイス情報のインポート手順 (V-SFT-5 の場合)

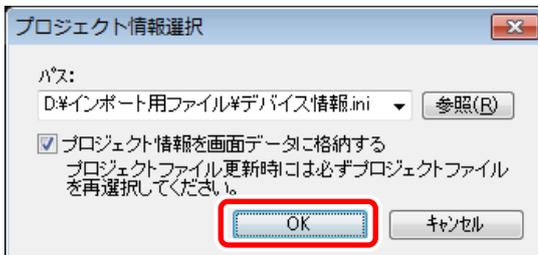
- ① [ファイル] → [プロジェクト] → [インポート]をクリックします。



- ② [参照] をクリックし、P. 7の④で保存したファイルを選んで [開く] をクリックします。

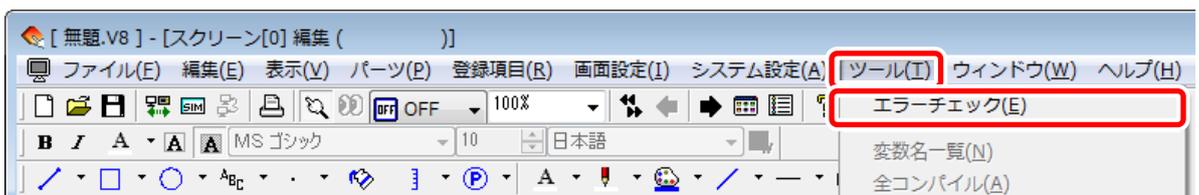


- ③ [プロジェクト情報選択] ウィンドウで指定したパスが表示されていることを確認し、[OK] をクリックします。



\* 画面データ転送時は、指定したパスにデバイス情報ファイル (\*. ini) と同じ名前のフォルダを格納しておいてください。

- ④ [ツール] → [エラーチェック] をクリックして、エラーがないことを確認します。



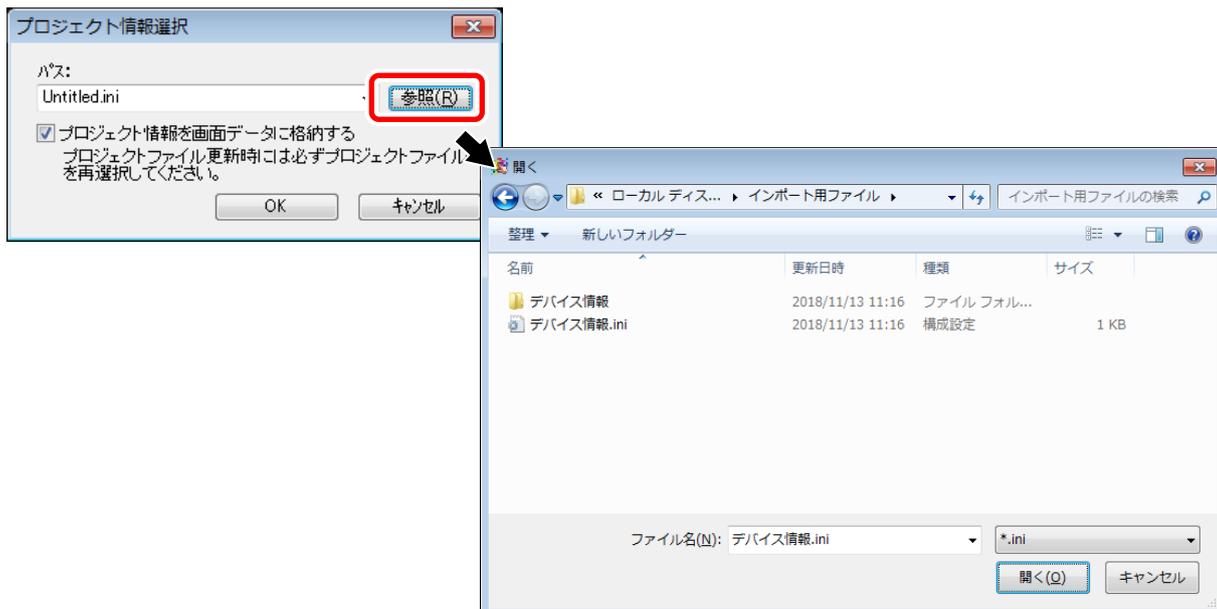
以上でデバイス情報のインポート作業は終了です。

6. デバイス情報のインポート手順 (V-SFT-6 の場合)

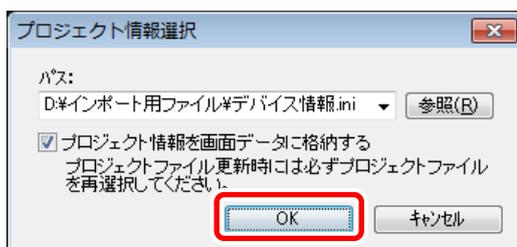
- ① V-SFT-6 の、[MICREX-SX] → [インポート] をクリックします。



- ② [参照] をクリックし、P. 7の④で保存したファイルを選んで [開く] をクリックします。



- ③ [プロジェクト情報選択] で指定したパスが表示されていることを確認し、[OK] をクリックします。



\* 画面データ転送時は、指定したパスにデバイス情報ファイル (\*.ini) と同じ名前のフォルダを格納しておいてください。

- ④ [ツール] → [エラーチェック] をクリックして、エラーがないことを確認します。



以上でデバイス情報のインポート作業は終了です。

【お問い合わせ】 発紘電機株式会社 技術相談窓口 フリーコール : 0120-128-220 FAX : 076-274-5208